

## ロシア港湾物流の注目点

# LOGISTICS NAVI

先月の速報値に基づく概要に続き、2018年のロシア港湾統計本報告書の主要部分を図表にまとめてお届けします。さらに、興味深い最近の動向について解説します。

### 2018年の俯瞰図

2018年のロシア港湾の総貨物量は8億1,670万t(+3.9%)で、内航を除く7億2,530万t(+3.6%)が国際貿易貨物であった。このほかに、バルト諸国経由で3,984万t、ウクライナ経由で606万t、フィンランド経由で611万tのロシア貨物がトランジットで出入りしており、ロシアの海上貿易貨物の6.7%が近隣国港湾を経由している計算だ。ロシア政府は近隣国の港湾利用を縮小したいと考えている。

港湾貨物の品目別では、大宗を占める原油(31.3%)、石油製品(17.8%)は中長期的に安定的で、景気変動に全く関係なく一定の量を輸出してきた。石炭(19.8%)も微増に留まった。資源分野の成長株はLNG(2.8%)で、2018年はヤマルLNGの開業効果で+56.9%とブレイクした。貿易統計でもLNGの輸出量は+50.4%に達している。

その他、穀物(+16.5%)、コンテナ(+11.1%)、鉄類(+8.3%)、鉄くず(+7.4%)、木材(+7.4%)等も増加した。穀物は天候の影響を受けがちであるが、中長期的に伸びている。2018年の輸出量は+33%と大幅増となった。

一方、フェリー、ローロー、鉱石などは減少が目立った(表1)。

表1 全国港湾の品目別取扱量(2018)

品目	貨物量 (1000t)	前年比 (%)	シェア (%)
鉱石	6,910.9	91.1	0.8
石炭・コークス	161,400.2	104.4	19.8
化学肥料	17,759.4	100.1	2.2
穀物	55,822.7	116.5	6.8
木材	5,523.9	107.4	0.7
鉄類	30,621.5	108.3	3.7
非鉄金属	3,512.2	95.9	0.4
鉄くず	4,063.2	107.4	0.5
コンテナ	53,610.5	111.1	6.6
フェリー	12,186.4	66.3	1.5
ローロー	4,998.2	87.4	0.6
原油	255,344.3	101.2	31.3
石油製品	145,078.3	102.4	17.8
LNG	23,176.4	156.9	2.8
その他	36,683.9		4.5
総量	816,692.0	103.9	100.0

表2 主要港湾の取扱貨物量(2018)

港湾名	水域	貨物量 (1000t)	前年比 (%)
総貨物量		816,692.0	103.9
① ノヴォロシースク港	黒海	154,897.0	105.0
② ウスチルガ港	バルト海	98,728.5	95.6
③ ヴォストーチヌイ港	極東	69,234.3	99.9
④ ムルマンスク港	北極	60,687.0	118.1
⑤ サンクトペテルブルグ港	バルト海	59,325.4	110.6
⑥ プリモルスク港	バルト海	53,488.2	92.9
⑦ カフカス港	黒海	30,128.3	100.9
⑧ ワニノ港	極東	29,496.6	100.9
⑨ トゥアブセ港	黒海	25,626.7	96.3
⑩ ナホトカ港	極東	24,290.4	100.1
⑪ ウラジオストク港	極東	21,151.1	124.7
⑫ ヴィソツク港	バルト海	18,790.3	107.1
⑬ サベッタ港	北極	17,444.6	234.7
⑭ プリゴロドノエ港	極東	17,034.8	97.9
⑮ ロストフナドヌー港	黒海	16,719.6	111.5
輸出		623,909.8	103.0
輸入		37,076.6	102.5
トランジット		64,312.3	110.3
内航		91,393.3	106.2

表3 主要品目の上位取扱港 (2018)

港湾名	水域	貨物量 (1000t)	前年比 (%)
<b>原油</b>		255,344.3	101.2
① ノヴォロシースク港	黒海	88,768.4	103.4
② プリモルスク港	バルト海	38,544.7	87.5
③ ムルマンスク港	北極	34,012.7	135.2
④ ヴォストーチヌイ港	極東	30,386.2	95.8
⑤ ウスチルガ港	バルト海	27,838.1	85.0
<b>石油製品</b>		145,078.3	102.4
① ウスチルガ港	バルト海	29,642.2	102.4
② ノヴォロシースク港	黒海	17,976.8	109.6
③ トゥアブセ港	黒海	16,066.4	94.7
④ プリモルスク港	バルト海	14,943.5	110.2
⑤ カフカス港	黒海	11,164.5	89.9
⑥ ヴィソツク港	バルト海	10,897.2	104.6
<b>LNG</b>		23,176.4	156.9
① プリゴロドノエ港	極東	11,413.3	99.0
② サベッタ港	北極	8,293.5	3,742.6
③ ウスチルガ港	バルト海	2,449.4	112.5
<b>石炭・コークス</b>		161,400.2	104.4
① ヴォストーチヌイ港	極東	33,206.8	102.4
② ウスチルガ港	バルト海	28,783.1	94.1
③ ワニノ港	極東	24,025.4	101.1
④ ムルマンスク港	北極	16,014.5	108.0
⑤ ナホトカ港	極東	14,886.6	109.0
⑥ シャフチョルスク港	極東	8,756.7	141.3
<b>鉄類</b>		30,621.3	108.3
① ノヴォロシースク港	黒海	13,604.0	113.9
② サンクトペテルブルグ港	バルト海	6,278.8	110.7
③ ウラジオストク港	極東	3,362.7	202.9
④ トゥアブセ港	黒海	2,936.5	118.0
⑤ ナホトカ港	極東	2,231.2	62.9
<b>穀物</b>		55,822.7	116.5
① ノヴォロシースク港	黒海	17,591.4	113.7
② ロストフナドヌー港	黒海	8,699.8	135.3
③ アゾフ港	黒海	7,837.9	136.8
④ カフカス港	黒海	7,727.8	100.1
⑤ タマニ港	黒海	4,088.9	118.2
<b>化学肥料</b>		17,758.4	100.1
① サンクトペテルブルグ港	バルト海	7,302.9	90.4
② ムルマンスク港	北極	3,648.5	106.7
③ ウスチルガ港	バルト海	3,597.5	112.5
④ トゥアブセ港	黒海	1,880.5	103.0
<b>木材</b>		5,523.9	107.4
① オリガ港	極東	1,431.5	110.7
② ワニノ港	極東	761.8	94.8
③ ナホトカ港	極東	422.9	101.9

主要港湾ではムルマンスク港 (+18.1%) の伸びが目立った。原油 (+35.2%) の増加が要因であるが、石炭も寄与した。

極東のウラジオストク港 (+24.7%) はコンテナ、鉄類、石油製品等幅広い品目で貨物量を増やした。

北極水域のサベッタ港はヤマルLNGの積出港として取扱量を2.3倍に増やし、新たに主要港にランクインした。

穀物 (+16.5%) は堅調だが、全体の93.7%がノヴォロシースク港、ロストフナドヌー港等の黒海水域港湾を経由して輸出された。

一方、ウスチルガ港は開港以来初の減少となった。原油と石炭の減少が響いた。プリモルスク港は主力の原油の減少が響いた。トゥアブセ港は石油製品と石炭が減少した。(表2、3)

**コンテナ貨物の復調**

コンテナ貨物量は景気指標の一つとも言われる。2015年を底として回復途上にあるコンテナ貨物は引き続き上昇した。2018年はTEUベースで+9.8%、トンベースで+11.1%増加した。なお、TEUベースでは2013年のピークに未だ戻り切っていない (図1)。

図1 ロシア港湾のコンテナ取扱量

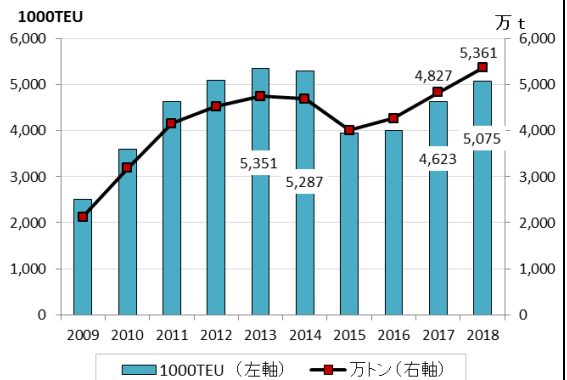
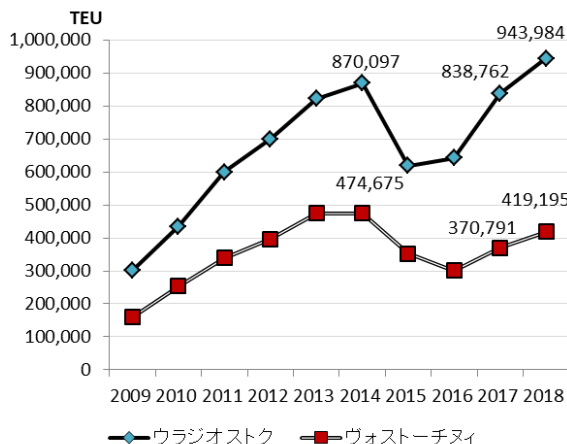


表4 コンテナの取扱上位港

港湾名	貨物量 (TEU)		2018/ 2017	シェア (%)
	2017	2018		
ロシア全体	4,623,240	5,075,184	109.8	100.0
サンクトペテルブルグ港	1,919,577	2,130,723	111.0	42.0
ウラジオストク港	838,762	943,984	112.5	18.6
ノヴォロシースク港	736,590	754,894	102.5	14.9
ヴォストーチヌイ港	370,791	419,195	113.1	8.3
カリーニングラード港	239,199	276,429	115.6	5.4
P. カムチャツキー港	79,997	97,630	122.0	1.9
ウスチルガ港	75,262	69,131	91.9	1.4
ドゥディンカ港	54,822	67,988	124.0	1.3
マガダン港	56,172	61,608	109.7	1.2
ムルマンスク港	42,528	40,610	95.5	0.8
サハリン諸港	135,550	141,149	104.1	2.8
その他	73,992	71,843	97.1	1.4
輸出	1,925,263	2,103,394	109.3	41.4
輸入	1,946,353	2,128,887	109.4	41.9
トランジット	67,668	94,865	140.2	1.9
内航	683,956	748,038	109.4	14.7

コンテナ貨物の復調は主要貿易港に共通してみられる現象である。TEUベースで見ると、バルト海水域では、最大のサンクトペテルブルグ港が+11.0%、カリーニングラード港が+15.6%と伸びた。黒海水域のノヴォロシースク港が+2.5%、極東水域ではウラジオストク港が+12.5%、ヴォストーチヌイ港が+13.1%と増加した。(図2)。

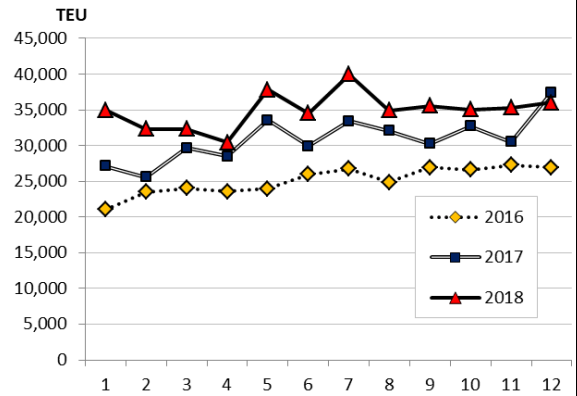
図2 極東2大コンテナ港の取扱量



コンテナ貨物の復調はヴォストーチヌイ港の月別コンテナ処理量からも明白である。2016年から2017年、2018年へと対前年同月の処理量が増えている(図3)。

近年目覚ましい中欧鉄道の発展が極東港湾に負の影響を与えるのではないかと懸念は杞憂であったことになる。中国最大の工業都市、上海地域からロシアへ向かう貨物は、中国鉄道ではなく、ウラジオストク/ヴォストーチヌイ港経由、シベリア鉄道でロシア西部へ輸送されている。

図3 ヴォストーチヌイ港の月別コンテナ量



### コンテナターミナルの盛衰

主要コンテナ港には複数のターミナル会社が並び、コンテナ獲得競争を繰り広げている。サンクトペテルブルグ港にはコンテナ処理のターミナルが大小10か所ある。

2016年以後、最大の実績を有しているのがコンテナターミナル・サンクトペテルブルグ(CTSP)である。同社は2011年に設立された新しい会社で、2018年も前年比+12.2%の増加でロシア最大のコンテナターミナル会社の座を守った。

2位はかつての王者、第一コンテナターミナル(FCT)で、前年比+11.4%と盛り返しつつある。3位がペテロレスポルト(PLP)で、

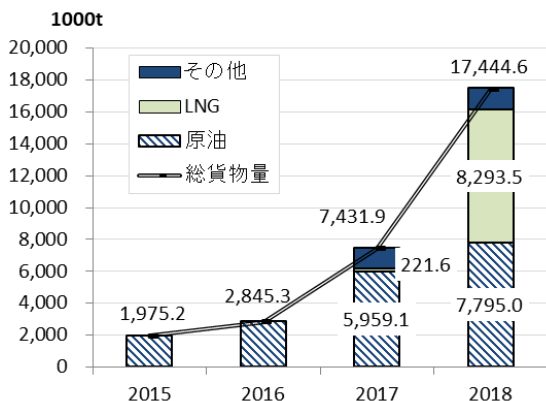
前年比+19.6%と復権しつつある。FCTとPLPはGlobalports社の傘下にある兄弟会社である。FCTとPLPの合計はCTSPを上回る。Moby Dikも同じくGlobalports社傘下にあるが、2018年は取扱量をトンベースで前年比38.5%と大幅に減らし、リストから外れた。

サンクトペテルブルグ港に新たにブロンカ・ターミナル (Fenix) が誕生した。同ターミナルは民間の投資会社Fenixが環状道路 (KAD) とフィンランド湾南岸が交差するロモノソフ地区にコンテナとRo-Roターミナル、および物流センターを建設する案件で、環状道路に隣接する好立地をアピールしている。2017年に一部供用を開始し、2018年は18万2,900TEUを扱った。同水域で後退を続けるウスチルガ港の2.6倍の貨物を既に獲得したことになる。増加が期待されるコンテナ獲得を狙って、サンクトペテルブルグ港ではターミナル間競争が激化しそうだ。荷主にとっては選択肢が増える。(表5、図4)

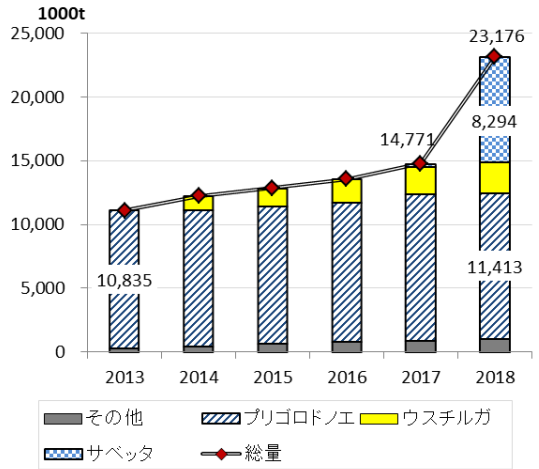
**ヤマルLNG稼働のインパクト**

ロシア港湾貨物の大宗を占める石油、石炭の大きな伸びが期待できない中で、LNGはロシア港湾にとって期待の星である。

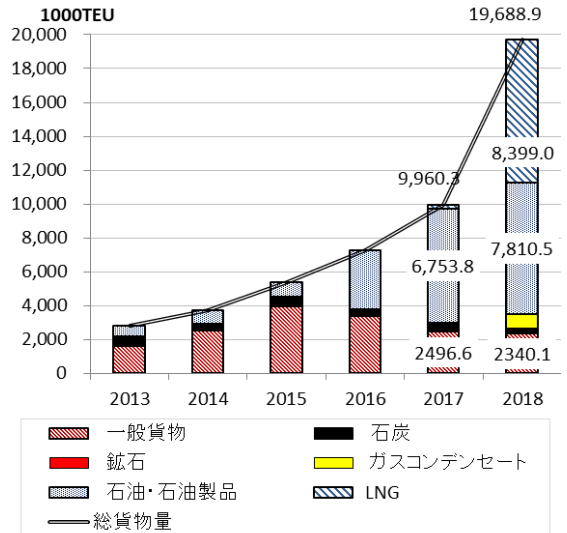
**図5 サベッタ港の貨物量**



**図6 ロシア港湾のLNG取扱量**



**図7 北極海航路 (NSR) の貨物量**



2018年にサベッタ港から829万 t のLNGが積出されたことにより、原油や一般貨物と合計した同港の貨物量は1,744万 t (前年比2.3倍)に跳ね上がった(図5)。2019年は1,800万 t のLNGが出荷される予定で、同港の貨物量は約2,800万 t に達する可能性がある。

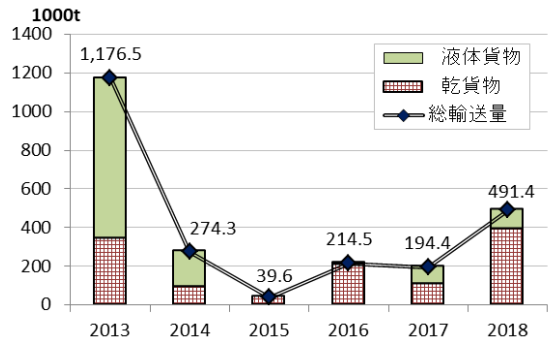
ロシア港湾全体のLNG取扱量も大幅に増加する。2013年から約1,000万 t /年のLNGがプリゴロドノエ港 (サハリン州) から出荷され

てきた。これにウスチルガ港やサベッタ港からの積出が加わり、2018年は+56.9%増となった。2019年にサベッタ港がプリゴロドノエ港を抜いてLNG取扱の1位に立つはずだ(図6)。

サベッタ港は北極海航路(NSR)の要衝にあり、出入りする船舶はNSRの貨物とみなされる。LNG積出開始により、2018年のNSR貨物量(トランジットを含まない)は倍増した(図7)。

興味深いことに、低迷していた北極水域のトランジット貨物も2018年は前年比2.5倍となった。今後の動向に注目したい(図8)。

図8 北極水域のトランジット貨物



(環日本海経済研究所名誉研究員 辻 久子)

表5 主要コンテナターミナルの実績(1000TEU)

コンテナターミナル名	水域	2016	2017	2018	2018/2017 (%)
CTSP(コンテナターミナル・サンクトペテルブルグ)	バルト海	557.8	643.7	722.0	112.2
FCT(第一コンテナターミナル)	バルト海	480.4	553.8	616.8	111.4
VMTP(ウラジオストク海洋商業港)	極東	330.1	467.9	551.0	117.7
VSC(ヴォストークス港)	極東	301.3	370.8	419.2	113.1
NUTEF(ノヴォロシースク港)	黒海	233.5	303.6	332.8	109.6
NLE(ノヴォロシースク港)	黒海	221.6	241.6	230.9	95.6
PLP(ペテロレスポルト)	バルト海	264.6	206.0	246.4	119.6
バルト・ステベ会社(カーニングラード港)	バルト海	NA	156.7	194.0	123.8
NMTP(ノヴォロシースク商業港)	黒海	158.3	191.4	191.2	99.9
VMRP(ウラジオストク漁業港)	極東	138.4	155.8	180.9	116.1
フェニックス(ブロンカターミナル)	バルト海		64.3	182.9	2.8倍
モビーディック	バルト海	155.4	167.6	NA	NA

図4 サンクトペテルブルグ港のターミナル別コンテナ処理量

